

風戸賞に豊岡、柴田氏 電頭関連研究で業績顕著



風戸賞・風戸研究奨励賞の授賞式。前列左から5番目が豊岡氏（風戸賞）、7番目が柴田氏（同）、4番目が釜崎氏（風戸研究奨励賞）、8番目が田中氏（同）。6番目が田中理事長、9番目が栗原日本電子社長。

風戸研究奨励会（田中通義理事長）は2月23日、第6回（平成24年度）「風戸賞」と「風戸研究奨励賞」の授賞式を経団連会館カンファレンス（東京都千代田区大手町）で行った。

■風戸研究奨励会 日本電子の創設者である、海軍機関学校出身の風戸健三氏が昭和43年に同社の創立20周年を記念して、私財から同社の株式等の寄付を行い、翌44年に設立した公益財団法人である。

風戸賞は、満45歳以下、電子顕微鏡並びに関連装置の研究、開発および電子顕微鏡並びに関連装置を用いた研究（医学、生物学、物

理学、化学、材料学、ナノテク、その他）において、優れた業績を挙げた研究者に贈られる。併せて副賞として50万円が贈呈される。風戸研究奨励賞は、満35歳

以下、同分野において実績があり、かつ将来性がある優秀な研究者に研究助成金として200万円が贈られる。

今回の受賞課題、受賞者、業績は次の通り。

【風戸賞】

◇電子顕微鏡法による新規細胞内小胞輸送経路の解明（豊岡公德・理化学研究所植物科学研究センター上級研究員）|| 複数の新規小胞輸送経路を発見し、細胞内物質代謝機構の解明に大きく貢献。さらに網羅的な電頭像撮影技術の開発を進め、発生・分化や環境変化に伴う植物組織・細胞の小

胞輸送経路の解明を進めている。

◇円環状明視野および差分位相コントラストSTEM法による材料界面の研究（柴田直哉・東京大学大学院工学系研究科准教授）|| 原子分解能走査透過電子顕微鏡法に新しい手法を付加し、先端材料の界面・表面構造を原子レベルで観察し、世界トップレベルの研究成果をあげた。

【風戸研究奨励賞】

◇三次元トモグラフィ法による紡錘体形成メカニズムの解析（釜崎とも子・名古屋大学大学院理学研究科博士研究員）|| 細胞分裂における紡錘体機能の形成・制御メカニズムを微細構造に基盤を置いて分子レベルで解明することを目指し、将来、細胞分裂の乱調であるガンの制御や有効治療薬の開発につなげる。

◇収差補正付きHRTM法による原子歪場の直接解析（田中将己・九州大学工学研究科准教授）|| 亀裂先端の歪み場を原子尺度で実験的に解明し、材料物理学や材料強度学の長年の懸案である、亀裂先端における応用緩和機構の解明を目指す。